

S-RED 通信

北海道大学 産学・地域協働推進機構 社会・地域創発本部 (Society-Region Emergence Department)

対談 北海道 2100 年の景色

第 2 回北海道創発会議×プラチナ構想ネットワーク北海道支部設立記念

対談の動画は
QR コード
または[こちら](#)から

北海道大学と一般社団法人プラチナ構想ネットワークは 12/12、北大において、プラチナ構想ネットワークの小宮山宏会長と北大の寶金清博総長の対談を実施しました。

今回の対談は、北大、文部科学省、北海道、道内の自治体が定期的に情報交換をする場として設けられた「北海道創発会議」と、プラチナ構想ネットワーク北海道支部設立を記念する共同イベントとして開催されました。

両氏は、2100 年の北海道で暮らす人々が、自分らしく幸せに生きられる社会をつくるためには、多様性を一層高めることと、人を惹きつける魅力ある人材の養成が鍵になると述べました。



3 分でわかる対談のポイント

Q: 2100 年の大学はどうなっている？

小宮山：何かを実践している人が集まって社会課題を解決する実践の場。

寶金：「超大学」という「求心力」の場。

※超大学：小宮山氏が提唱している、大学を核として多様な人が集まる仕組みのこと。

Q: 北大はどう変わっていくべき？

寶金：（外国人を含め）学内の多様性を高めていくことが重要。地域の力を引き出す存在になること。Jリーグのユースチームのように若い世代を育てる基盤を北大につくってみたい。

Q: どうやって魅力ある人材を育てる？

小宮山：人を惹きつける魅力ある人たちの周りで、具体的に何かを一緒にやっている時に、人材は育つ。

[COI](#)（センター・オブ・イノベーション）のように新しい具体的な社会課題に挑戦をする場は最適。

※ COI：10 年後の目指すべき社会像を見据えたビジョン主導型のチャレンジング・ハイリスクな研究開発を科学技術振興機構（JST）が支援するプログラム

Q: 自治体と大学の連携について

寶金：自治体と大学が連携するには、予算という大きな壁がある。

小宮山：制限があっても、自治体はどうしたら大学と連携できるかを考えてほしい。時代に合うように法規制を変えることも必要。

Q: 企業と大学の連携について

寶金：海外と比較するとまだ遅れているが、ただ海外の例をまねるのではなく、日本版産学連携システムをつくっていくことが大事。

小宮山：そういう意味では [COI](#) は「本気」の日本版産学連携プロジェクト。

Q: 2100 年の北海道の景色は？

小宮山：社会課題をみんなで一緒に考えて、解決方法を試すというアクティブ・ラーニングが、大学を中心に行われていくのでは。

寶金：多様性が高まり、北海道は劇的に変わっているのではないかと。私には、危機感をばねにして、みんなが力を合わせて課題に取り組む、北海道の姿が見える。



小宮山 宏氏

一般社団法人プラチナ
構想ネットワーク 会長三菱総合研究所 理事長
東京大学 第 28 代総長

北海道の次の 100 年に向け、vision「プラチナ社会＝地球が持続し、豊かで、すべての人の自己実現を可能にする社会」を掲げ、精力的に活動している。



寶金 清博氏

北海道大学 総長

『光』は「北」から、「北」から「世界」へ』をスローガンに、社会と歩む卓越大学「Accessible Excellence」をめざし活動

Q: 今から私たちがすべきことは？

小宮山：すべての人の自己実現が可能になる社会をつくるために、今までの教育システムとは違う人材養成システムをつくること。

寶金：2100 年に向けてのキーワードは（ゆりかごから墓場までの）「教育」になるだろう。



「ハートフルネス」体験ワークショップ

スタンフォード大学人気授業 マインドフルネスを超える幸福への道



こころとカラダのライフデザイン共創拠点（以下、拠点）は、12/2 から12/4 にかけて、スタンフォード大学教授のステイーヴン・マーフィ重松氏をお迎えし、北海道教育大学岩見沢校（以下、道教大岩見沢）と北海道大学（以下、北大）において、ハートフルネス体験ワークショップを実施しました。

9 月の東京開催に引き続き、2 回目となった今回のワークショップには、岩見沢市の保健師や養護教員、北大と道教大岩見沢の教職員や学生、札幌の高校生など約 60 名が参加しました。



ステイーヴン・マーフィ重松
スタンフォード大学 教授
アメリカ心理学会フェロー

ハートフルネスとは

「ハートフルネス」とは、マインドフル（心を「今、この瞬間」に向けた状態）に他者への思いやりと責任をもって生きること、自分自身の幸福を高める方法のことです。責任という言葉は「仕方なくやるもの」と捉える方もいるかもしれませんが、責任とは、社会から求められているものにおいて、自分の能力を持って応えることです。自分が責任を負うとを感じる場面で、マインドフルに相手に接し、自分の能力を尽くすことで、私たちは幸福感を感じるのです。

参加者らは、ありのままの自己と他者を認め合うエクササイズと、思いやりと感謝の気持ちを持って、マインドフルに生きることの大切さを実感するエクササイズを行いました。ワークショップ終了後、参加者からは、「何のために生きているのかを、考える良いきっかけとなった」「普段なかなか意識をしない心の奥に目を向けてみようと思う」などの感想が寄せられました。

今後は、拠点がめざす「若者が自分の選択肢を増やしていくことができ、他者（ひと）とともに、自分らしく幸せに生きる社会」を実現するため、ハートフルネスを体験できる場を道内に創り、ワークショップを実施していく予定です。



吉野 正則

北大 COI-NEXT
こころとカラダのライフデザイン
共創拠点プロジェクトリーダー

このハートフルネスは、スタンフォード大学の「利他と思いやり」研究のひとつです。学生から、企業の幹部研修までひろくひろがってきています。自己肯定感を高め、なぜ生きる、なぜ「まなびあい」が必要なのかを、自分と他者の関係の中で考えるワークショップ型の体験です。今後、北海道で多くの方が体験できるようにしていきます。

北海道大学特任教授 /
社会・地域創発本部 本部長

北海道大学 産学・地域協働推進機構 社会・地域創発本部 (S-RED)
〒001-0021 札幌市北区北 21 条西 11 丁目 FMI 国際拠点 1F
TEL: 011-706-9602 E-mail: coi-meeting@fmi.hokudai.ac.jp

今後のイベント（予定）

2023/01/10 COI & NEXT ーダー会議

2023/02/07 第 5 回参画機関会議
東京開催（対面・オンライン）

2023/03/18 emmy fes0.9 in 小樽

S-RED 通信
バックナンバーは
QR コード
またはこちらから

